

KLiS TODAY

No.
36

筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば市春日1-2 Tel 029-859-1110 Fax 029-859-1162

URL <https://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail klis-info@inf.tsukuba.ac.jp

知識情報・図書館学類の授業紹介

メディア社会学 (担当: 後藤嘉宏教授) の紹介

小島 あずさ、口木 みのり



ご担当の後藤先生

「メディア社会学」を教えてください。後藤先生は非常にフランクで、学生と談笑している姿をよく見かけます。

さて、マックス・ウェーバーという名前を一度は聞いたことがあるのではないのでしょうか。メディア社会学では、この人物の考えを中心に置いて社会学を学びます。後藤先生は身近な例を多く用いてわかりやすく、また、先生自身の批評も加えて教えてください。示された例が知識情報・図書館学類生ならではのものであり、ふふっと笑ってしまうこともありました。例が身近だからこそ楽しく、学びやすいです。また、メディア社会学は基本的にスライドで授業が進むのですが、ホワイトボードもふんだんに使われます。特に文字でホワイトボードが埋まったときは大学生っぽい授業だなあと感じました。

(こじま・あずさ、くちき・みのり 知識情報・図書館学類2年次)

コンピュータシステムとネットワーク (担当: 阪口哲男准教授) の紹介

齊藤 涼



ご担当の阪口先生

「コンピュータシステムとネットワーク」では、殆どの方があまり馴染みのないLinux機を用いてコンピュータやネットワークシステムの基礎を学びます。担当の阪口先生はCUI (コンピュータへの指示を文字で行います! 普段私たちが使う、フォルダをクリックしたりして操作するのはGUI) の達人で、カタカタとキーボードを鳴らしながら魔法のようにコンピュータを操ります。しばしば (というより、よく) 脱線する先生のお話も授業の醍醐味です。ネットの黎明期を戦い抜いてきた先生のお話は、現在からは想像しにくい世界でとても面白いですよ。授業内容は難しそうですが、得意ではない人でも理解できるように丁寧に解説して下さります。普段何気なく利用している機器やネットの世界の仕組みを、基礎から覗かせてもらえる授業です。(さいとう・りょう 知識情報・図書館学類3年次)



研究室紹介：小泉公乃研究室

川原 涼太郎、花島 夏芽、村松 ななみ



小泉研究室に入ることが決まった昨年11月、まず初めに研究室のモットーを教わりました。「困ったときはお互いさま」。学類3年の終わり頃から卒業研究が本格化し、今年6月には着手発表会（注：卒業研究のテーマと手法などをプレゼンテーションする会）が行われました。就職活動に追われる中、不慣れな研究活動が始まりましたが、このとき研究室の先輩方には沢山アドバイスをいただき乗り越えることができました。

現在、小泉研究室には博士前期課程が4人、博士後期課程が5人（うち社会人3人）、学類4年生が3人所属しています。ドイツに留学していた人や、イベントの運営をやっている人、モロッコからの留学生、他大で非常勤講師をしている人など、個性豊かなメンバーが多く、普段の共同研究室での雰囲気は和気あいあいとしています。一方、ゼミでは空気が切り替わって激しい議論が行われ、お互いに切磋琢磨しあっています。また、ゼミ合宿や社会人学生とのゼミに参加することで、様々な方々と交流することができ、幅広い視点から研究への意見をいただけます。最初は研究の方法がまったくわからなくても、研究室のメンバーと一緒に成長していけます。小泉研究室で扱っている主要な研究テーマは、「図書館と公共経営」です。具体的には、図書館あるいは類縁機関が知識・情報やそのサービスをどのように市民に対して提供するの、またそれを通し地域社会における様々な課題をどのように解決していくのかについて、(1)政府（公共政策）、(2)図書館（経営）、(3)市民（図書館の利用者）の3つのレベルを切り口に、マネジメントあるいはガバナンスという観点からそれぞれ研究をしています。2019年度の学類生3名の卒業研究のテーマは『戦後の日本における公立図書館の平面構成の変遷』、『持続可能なマイクロライブラリーの資金調達メカニズム』、『議論の場としての図書館の役割：公共圏の視点から』です。興味のある方はぜひ共同研究室までお越しください。

（かわはら・りょうたろう、はなじま・なつめ、むらまつ・ななみ 知識情報・図書館学類4年次）

相手の想いを理解する

加藤 誠

自分の思っていることが伝わらない。自分が思うことの半分も伝わらない。言葉にするとまったく別のものになってしまう。言葉だけでは伝わらない。言葉にしなくても理解してほしい。自分をよく理解してくれていない。自分の求めているものが自分でもよくわかっていない。

コミュニケーションの齟齬は、人間同士に限った問題ではなく、情報検索という研究分野においても中心的な課題の一つと考えられています。図書やウェブページなどを検索するシステムは、利用者の



要求に対して適切な情報を提供することが期待されています。利用者は自分の欲しい情報を表現するキーワードを入力し、検索システムはそのキーワードに基づいて利用者の意図を汲み取り、期待に沿う情報を検索結果の上の方に順位付けしようとする。例えば、「iPhoneなどApple社の新製品がいつ発売するか知りたい」と思って「アップル 新製品 発売日」というキーワードでウェブ検索した場合、検索結果の上位にはリンゴの新しい品種がいつ発売するかなどの情報は表示されず、最新の電子機器に関するウェブページが並ぶでしょう。それでは、「おいしい ラーメン」と検索するとどうでしょうか。検索システムは本当にあなたがおいしいと思うようなラーメン屋を探してくれるのでしょうか。「昨日CMで見た芸能人」や「自分に向いている職業」というキーワードで検索するとどうでしょうか。

上記のキーワードで検索するまでもなくわかることかもしれませんが、検索システムはあなたが普段考えていることや見ていること、性格や好みなどを完璧には理解してくれていません。また、あなたも自分の想いを正確に伝える手段を持ち、適切な言葉で表現できるとは限りません。さらに言えば、自分の想いを自分でも正確に把握できていないこともあります。

これらの難題をすべて乗り越え、利用者の期待に応えられる検索システムを作り出すことは、情報検索分野における究極的な目標の一つです。相手の想いを理解する方法の研究とも言えます。宇宙の謎に迫る、くらいにはロマンティックな研究分野ではないでしょうか。

着任のご挨拶：2019年4月に筑波大学へ着任しました、加藤 誠と申します。情報検索を専門にしており、最近は特にWebで公開されている数量データからの知識発見、および、その検索に取り組んでいます。学類の授業では、「微積分A」と「知識資源の分類と索引」について担当する予定です。情報検索分野や研究自体の楽しさが伝わるようにやっていけたらなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(かとう・まこと 知識情報・図書館学類 准教授)

サバティカル報告

関 洋平

2018年の6月から、シンガポール国立大学を訪問しました。ジャングルに囲まれたキャンパスは、筑波大学の約半分の広さで、階段が多く、熱帯の気候もあり減量に向いています。移動には、無料バスに加えて、e-スクーターを携帯アプリで利用でき、学食はキャッシュレスです。私が訪問した School



of Computing は、卒業後の平均月収は40万円を超えるそうで、卒論はなく、意欲のある学生は、卒業後5年制の博士課程に進むことができます。訪問先では、ホストを務めて頂いた Min-Yen Kan 准教授のゼミに出席して議論をしたほか、自然言語処理シンポジウムへの招待等、温かく迎えて頂きました。また、著名な研究者が訪問しており、深層学習やスマートシティに関する研究トピックを共有できました。サバティカルの許可を頂いた松本紳前系長と、ご支援を頂いた先生方に感謝申し上げます。

(せき・ようへい 知識情報・図書館学類 准教授)

松林 麻実子

昨年4月から一年間、カナダのブリティッシュコロンビア大学に客員研究員として滞在してきました。この大学の図書館情報学部は世界でも有数のカリキュラムを誇っており、多くの卒業生が北米の各種図書館・文書館のチーフライブラリアンやアーキビストとして就職するなど、大学での学びと就職とが直結



していることで知られています。緑豊かな広大なキャンパスに多くの学生が滞在し、平日休日を問わず、朝から晩まで熱心に勉強していました。とても人気のある大学なので、世界中から様々な分野の研究者が多数訪れており、学生たちにはそのような研究者による講演を聴く機会がふんだんに与えられています。また、民族の多様性も配慮されており、マイノリティにとっても過ごしやすいところでした。まさに「知の殿堂」と言える素晴らしい大学でした。

ブリティッシュコロンビア大学
アーヴィング・バーバー・ラーニングセンター

(まつばやし・まみこ 知識情報・図書館学類 講師)